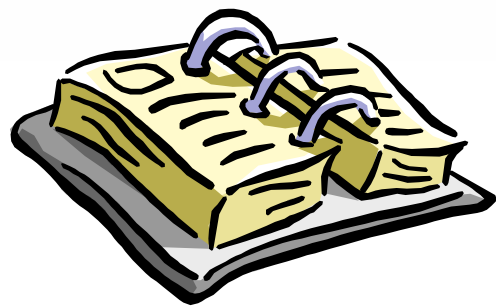


“すいすい” すくすく

ぶなの木アルバム Vol.1

—「すいすい倶楽部」の成長記録—



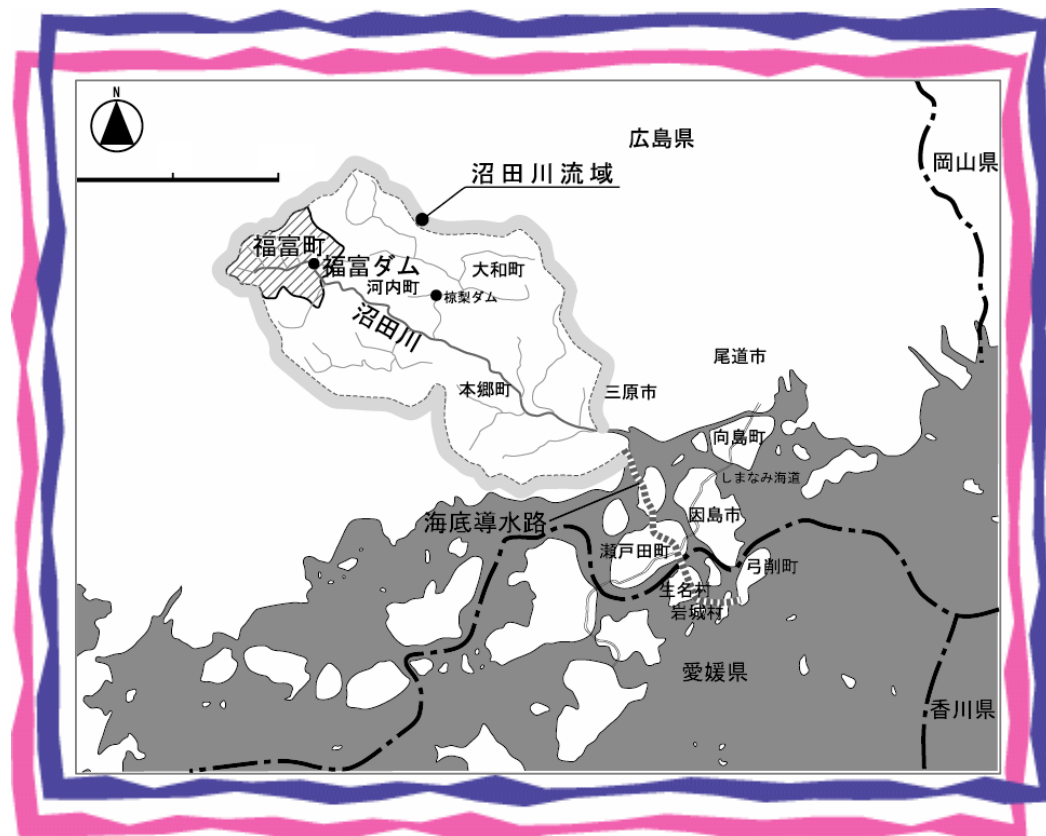
1999/10 — 2004/11

初めての日から、第1回沼田川サミット開催まで

1 なまえは、“すいすい倶楽部”

〈生まれたところ〉 - 沼田川の源流・福富町 -

〈育ったところ〉 - 沼田川流域 -



※ 愛媛県弓削町・生名村・岩城村は、平成 16 年 10 月に上島町となりました。

※ 広島県福富町は、平成 17 年 2 月に東広島市となります。

沼田川は、広島県の中央部に位置する福富町にその源を発し、山間部で入野川、椋梨川を合流しながら東流し、瀬戸内海に注いでいます。その流域面積は、540 km²、流路延長は、49.4 kmの二級河川です。沼田川の流域一帯は、典型的な瀬戸内海型の気候を示し、温暖多雨です。

沼田川の水利用は古くから行われ、現在もかんがい用水、水道用水、発電等に高度に利用されています。特に、昔から水不足で苦勞してきた瀬戸内海の島にまで海底送水管で水が送られています。

そして今、流域周辺地域の生産活動、宅地化の進展による水道用水の需要の増大が予想され、新たな水源確保を目的に、福富町に多目的ダムとして「福富ダム」が整備されつつあります。

町の中央が水没することになる福富町では、新しい地域づくりを目指して、住民が中心となった勉強会を始めました。そして、2000 年夏に、沼田川流域の水と共に暮らす人々と、楽しく希望に満ちた未来をつくるために「すいすい倶楽部」を立ち上げました。



2 成長記録



5歳

9月 第5回アクアフェスタ in 福富 開催 講演：北野 大氏
11月 第1回沼田川サミット 開催
3月（予定） アクアの森

4歳

H15 年度
2003

7月 地元小学校「総合的な学習の時間」指導、8月 昆虫教室の開催
9月 愛媛県弓削町の弓削荘園祭に参加
10月 第4回アクアフェスタ in 福富 開催 講演：オスマン・サンコン氏
10月 愛媛県生名村秋祭り（初参加）
11月 愛媛県弓削町、産業まつりに参加、岩城村の産業まつりに参加
3月 第3回アクアの森植林交流会 実施

3歳

H14 年度
2002

5月 名称変更 「水水倶楽部」から「すいすい倶楽部」へ
随時 魚をすくう会（すくう：網でとって楽しむ意味と救助の掛詞）
10月 第3回アクアフェスタ in 福富 開催 講演：大山のぶ代氏
3月 第2回アクアの森植林交流会 実施

2歳

H13 年度
2001

8月 愛媛県弓削町の「シーサイドフェスタ」にスポーツ少年団を引率して交流
10月 第2回アクアフェスタ in 福富 開催 講演：CW ニコル氏
11月 愛媛県弓削町の産業まつりに参加
3月 第1回アクアの森植林交流会 実施

1歳

H12 年度
2000

6月 「水源地域の活性化を考える団体」の参加募集一広報ふくとみ（広報誌）
7月 「水水倶楽部（上下流交流推進会議）発足
8月 愛媛県弓削町の地域イベント「シーサイドフェスタ」に水水倶楽部（初遠征）
10月 第1回アクアフェスタ in 福富 開催 講演：柳生博氏（弓削町初参加）
11月 愛媛県弓削町の産業まつりに初参加、1月愛媛県岩城村の産業まつり初参加
先達の水源地域との交流から学ぶ（その2）一大分県大山町に訪問一

誕生

H11 年度
1999

10～3月 福富町役場からの呼びかけで、福富の水を考える夜会「人づくり塾」
11月 福富町から下流の受益地域となる愛媛県弓削町への初訪問
上下流はじめての一步
2月 先達の水源地域との交流から学ぶ（その1）一大分県大山町からの訪問一

3 すいすい倶楽部－誕生前(平成11年)－

愛媛県弓削町への訪問

下流地域から水源地域を訪れてもらうのを待つ交流ではなく、水源地域住民が積極的に下流地域を訪ねて、水源地域住民の口から水源地域の存在や魅力を伝え実情を理解してもらうことが大切ではないかと考えました。その一歩として、瀬戸内海に浮かぶ島で、海底送水管により沼田川の水を受益している愛媛県弓削町に赴くことにしました。



福富町と弓削町の町長同士の話し合いをきっかけに、福富町の行政担当者と弓削町の商工会や地域づくりに熱心な住民とのつながりを形成していきました。

大分県大山町からの訪問

水源地域のまちづくりをより良いものとするために、下流地域の住民の力を水源地域に活かすまちづくりの考え方や下流地域に対する水源地域の役割について学ぶ機会が必要と考えました。

そこで、筑後川の水源地域でもあり大分県の一村一品運動の元祖となった大分県大山町から学ぼうと、双方の住民がお互いの町を訪れ交流をはじめました。交流の第1弾として、大山町民が1泊2日で福富町を訪れました。



環境学習の授業参観



もっとも美味しい井戸水での
もてなし・懇談会など

平成

412年の主な活動ー(0~1歳)ー

7月「水水俱樂部」誕生



水 まちおこしの主役です

ダム建設進む福富 住民がグループ結成



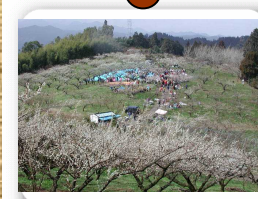
沼田川沿い 交流図る

愛媛・弓削の住民招待も



講演

柳生 博氏



第1回 アクアフェスタ in 福富

町で主催していた福祉イベントや産業振興イベント、教育委員会の文化行事などを統合し、町民も参加した実行委員会が主催する『アクアフェスタ』を開催することにしました。福富ダムのほか「水」の役割、働き、知識などを自分たちで作成したパネルで紹介したり、水水倶楽部のメンバーが、福富の川から採取してきた川魚や川蟹を展示しました。

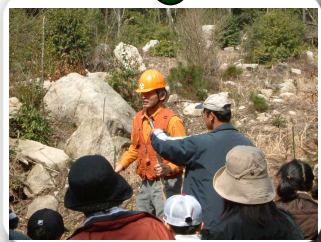
すいすい倶楽部初遠征！

- 8月には「ゆげシーサイドフェスタ」に「水水倶楽部」として初参加。ボートレースでは、下流域の強豪の中を慣れぬ權さばきをこなして健闘し親交を深めました。
- 秋には「弓削町産業祭」に参加しました。福富町からは、地域資源を生かして作った様々な特産品を持ち込み販売活動を行いました。

大分県大山町へ訪問

福富町から大山町を訪れ、ダム建設に伴う水没移転代替地やまちづくりの拠点施設を見学するとともに、住民同士の意見交換を進めました。女性グループなどが中心となった地元食材による食文化の研究があり、交流の場で披露されました。また、大山ダムの水が供給される予定の福岡市住民が参加する上下流交流イベントにも参加しました。

平成 513年の主な活動ー(1~2歳)ー

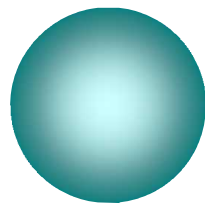


上下流植樹祭(第1回「アクアの森植林交流会」)

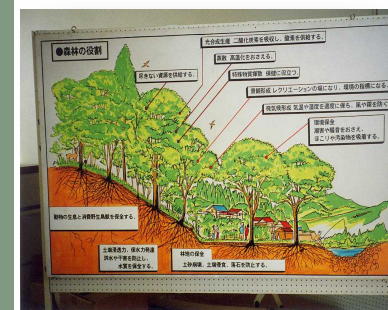
瀬戸内海に浮かぶ弓削町、生名村、岩城村との交流を通じて、水との関係は人だけではなく生き物との関係であるとの問題意識を深めました。その中で、あらためて自分たちの足下である水源の森の環境を維持保全していく大切さを認識しました。それまで福富の森を守り育てる活動は弱かったのですが、今回の交流を通じて下流地域住民と共に水源の森づくりに取り組むことにしました。

愛媛県 弓削町シーサイドフェスタ(参加！)





第2回 「アクアフェスタ in 福富」の様子



講演: C・W ニコル氏

すいすい倶楽部・防衛庁長官

①アクア瓦版

当該年度のテーマや講演者のプロフィールを紹介

(実行委員会)

②アクアアート

会場の入り口に、自然の素材と水を使ったオブジェ制作展示

(すいすい倶楽部)

③水の環境学習

水に関する環境学習の成果を、パネル等に展示発表

(福富中学校、生徒)



④水の試飲コーナー

各地の水の試飲スタンド Water-Bar
(福富中学校、生徒バーテン姿で)



⑤下流域からの出店

特産品を通じて相互交流
(愛媛県弓削町、岩城町、生名村)



⑥福富水族館

福富ダム、「水」の役割・働きなどを理解してもらうためパネル紹介や川魚や川蟹の展示
(すいすい倶楽部)



⑦活動資金づくり

すいすい倶楽部として出店し、活動資金確保に努力
(すいすい倶楽部)

平成 614年の主な活動－(2～3歳)－

第2回 「アクアの森植林交流会」

名称変更！

「すいすい倶楽部」へ
(水水倶楽部)



魚をすくう会

第3回 アクアフエスタ in 福富



主催／福富町アクアフエスタ実行委員会 TEL0824-35-2018
講演：大山のぶ代 氏



魚をすくう会

広島県福富町の沼田川上流でしゅんせつ工事が始まるのを前に、すいすい倶楽部が、工事現場付近にすむ貴重な魚を捕獲し別の場所に放流した。

メンバー9人が、はき慣れたゴム長靴で腰まで水につかりながら、魚を網ですくいバケツに移した。県の絶滅危ぐ種に指定されているオヤニラミやスナヤツメなど約5種類70匹を捕獲し、約300メートル上流の似た環境の場所に放流した。



平成 816年の主な活動ー(4~5歳)ー

今までの活動で、印象に残っている思い出

- 2001年夏、弓削町シーサイドフェスタにスポーツ少年団の子ども達を連れて行きました。水道局、TVスタジオ、交流野球、研修船見学、祭り見学、ボート作成、食事の手伝い、とスケジュールがきつく途中で倒れてしまいました。
- 植樹で小さな子どもが、熱射病になった。昼から元気になって帰りには、「おじさんありがとう」といってくれた。なぜかそういうことが思い出に残っている。岩城村の産業祭りに行って、絵の先生と知り合ったが、そのお兄さんも絵を描いていて、その人が今度私の同級生のギャラリーで展示会を開くことになった。
- アクアフェスタの魚取りやモニュメントづくり
- 理想であった植林交流が実現したときは「マジかい。」と思った。
- 植樹、下流町での特産品販売に参加したこと
- 植林活動が印象に残っている
- アクアフェスタに参加したことが印象に残っている
- アクアの森植林作業（下刈りを含む）
- 暑い中での焼き肉 交流会

第4回 アクアの森植林交流会



RCC表彰



源流の碑 建立

沼田川の源流が、どこになるのか、これは、すいすい倶楽部立ち上げ当初からの関心事でした。そして、源流を求めて踏査した結果、たどり着いたのがここです。

すいすい倶楽部認定の沼田川源流地点には、源流の碑を建立しました。

詳細は、すいすい倶楽部会員にお尋ねください。



第1回 沼田川サミット開催

「すいすい倶楽部設立 5 周年」を記念し、沼田川流域（上水道を含む）の関係者の方に一同にお集まりいただき、沼田川についての意見交換を行い、地域の活性化を目的に沼田川サミットを開催しました。

参加者：約80名

テーマ 環境・交流・未来

沼田川サミット

- 9:00 受付開始
- 10:00 開会
主催者挨拶・来賓挨拶
来賓紹介
- 10:30 記念講演 藤野完二氏
（「結い」地域づくりの鍵）
- 13:00 パネルディスカッション
各地域の皆様主体
- 14:30 閉会式 まとめ
- 15:00 サミット終了
- 15:30 懇親会
- 17:00 懇親会終了

日時：平成16年11月28日

場所：福富町西公民館 大ホール

主催：すいすい倶楽部



第1回 沼田川サミット開催

記念講演 「結い」地域づくりの鍵



一人の力では出来ないことも、繋がればできる。
難しいことではないんです。
気張らず始めてみませんか？

藤野完二氏 環境庁認定環境カウンセラー
RCC パーソナリティー 他

活動内容
太田川探検隊、・・・・・・・・

＜講演内容＞

藤野さんご自身の「取り組みと体験談」を基に、沼田川流域連携の可能性や連携を促進するためのヒント等について、スライドや小道具を使いながら、一人一人に語りかけるようにお話くださいました。

◆演題を「結い」にしたわけ

1. 一人の力では出来ないことも、繋がればできる
2. 人間は社会性の動物
3. 社会性を維持するには約束を守ること
4. 人間関係を守る約束が「結い」
5. 地域に見え始めた危機の兆候
6. 地震で注目されたコミュニティ
7. 地域コミュニティに欠かせない「結い」

◆川をテーマにした藤野さんの取り組み

1. 楽しく元気に！太田川探検協会
上下流学校間交流で、川・森の体験
2. 錦川での活動（続ける人が繋がって・・・）
流域4つの小中学校で寸劇会
錦帯橋の橋の部材を地域リレーで森に返し、「源流の碑」を建立
※流域連携なくしては川は守れない

◆流域連携のヒント

はじめの一步は、「たのしく繋がろう」
まずは、お互いを知ることから始まる。お互いを知るには共同のマップづくりが有効。
観光マップではなく、つながりのマップ！
皆で作る目的に合わせた流域マップ。

◆事例から学ぶ

1. 繋がって魅力が倍増例
四万十川の修学旅行コースづくり（歴史・風土、自然、アウトドアスポーツ等、目的別にコースを作成）
2. 知恵と工夫と連携で・・・
吉野川源流域の作戦（ドングリ銀行の挑戦）ドングリで吉野川流域と高松市を繋ぐ

◆沼田川体験記

- 13 年程前に、私も沼田川で取り組みました。
1. 流域の仲間と協力して子供たちを集めた
 2. 5 年連続全国の音楽家を集めてコンサートを開催していた（昼下がりのバロック）

◆メッセージ

難しいことではありません。
「まず始める！気張らず！楽しく！、結果を考えない！」

話題を「結い」にしたわけ

- 1 人間は一人じゃ生きれない
- 2 社会には約束がある
- 3 地域の約束が「結い」
- 4 地震災害での地域コミュニティ
- 5 やがてくる地域のもう一つの危機
- 6 地域コミュニティに「結い」は欠かせない

体験から見えたこと

- ・「たいそうなことではありません！」
- ・「始めたから結果があります！」
- ・「でも、始める人もいました！」

錦帯橋は森の産物

・「主な産物の源流に近づく予定」

・「橋の部材を地域リレーで森へ返し、「源流の碑」を建立した」

カエルが問いかける

・「結い」は「結い」が無くては
・「かや講」を知ってますか
・「かや講」は地域連携の姿とは
・「結い」は人と人のつながり
・現代版「結い」を作ろう

初めの一步は

・「包む」は「結い」が無くては
・「かや講」を知ってますか
・「かや講」は地域連携の姿とは
・「結い」は人と人のつながり
・現代版「結い」を作ろう

結ぶ為の地図づくり

1. 結ぶにはお互いを知ろう
2. お互いを知るための流域マップ
3. 流域マップは環境マップじゃない
4. 目的に合わせた流域マップ
5. 皆で作ってこそ意味がある
6. 恰好じゃないよ
7. 例えばこんな地図

上下流学校間交流

・太田川下流域（水道）の広島市、東広島市、廿日市市の子ども達が14回に分かれて源流域を訪問し地元子ども達と川を観察、体験

・参加総数1400名

交流の様子

・森の中の体験

・カヌー体験

難しい事ではありません

・切戸川美化
ホテルで大作戦

・「まず始める
・「気張らず
・「楽しく
・「結果を考えない」

・シロースアップ

視覚的に写真や文字が
飛び込んできて、しっかり
心に残りました。



熱い講演に、メモをとる人も・・・

パネルディスカッション



流域住民の交流に向けて 活動例からヒントを探る

ーパネリストー

上島町 村瀬忍氏
三原市 藤井宏道氏（行政）企画グループ
講演者 藤野完二氏
河内町 野田一三氏
福富町 久保田辰夫氏（福富出身画家）
水脇正司氏（しゃくなげ館館長）
松永治寿氏（すいすい倶楽部）
司会進行：立畠昭彦氏（すいすい倶楽部）

〈地域の状況や活動等について紹介〉

- ・村瀬忍氏（上島から4名参加）
海水浄化を行うために、米のとぎ汁に「菌」を入れたものを海にまいている。
- ・藤井宏道氏
三原を好きになることを目的に活動している。
- ・野田一三氏
リバーサイドフェスタ（あゆのつかみ取り）森づくりのために杜仲茶を栽培し、剪定や肥料まきを行っている。
- ・久保田辰夫氏
沼田川の民家の絵を描いている。
福富を離れた期間で福富の良さを知った。空気を吸って分かること、離れて分かることがある。子供たちに良いものを残していきたい。
- ・水脇正司氏
水で経済活動をしている（源流豆腐）、洗剤は使っていない。
- ・松永治寿氏
すいすい倶楽部のよい所は、「行動力」があること。

〈サミットをきっかけに考えたいこと・・・〉

- ・カヌーなどの遊びを通じて子供達に「水への親しみ」の場を作っていきたい。
 - ・沼田川を再確認するために、遊び専用マップ、個別マップなど住民参加でなんとかできないか。
- 〈藤野氏からのヒント〉
- ・遊びを通して問題点を共有してはどうか。
 - ・みんなで歩こう。
 - ・カヌーがダメならライフジャケットを着て遊ぶ。
 - ・沼田川に伝わる民話にもヒントがたくさんある。

〈サミットをきっかけに出来ることは？〉

- ・沼田川流域の地域が共同でイベントに取り組む。
（例：足舟、ウォーキング、握手）
- ・河内町で筏を使ったイベントが行われているが、それぞれの地域で協力し1つのイベントにしているかどうか。
- ・沼田川子供サミットとの連携。
- ・例えば、流域交流会のような情報交換できる団体や場を立ち上げればどうか？
- ・ネットで管理しながら地図づくり

〈藤野氏からのヒント〉

情報を共有することから始めて
みたらどうでしょう？
ダメならやめればいいんです。

- ・沼田川探検協会できないか。前向きに取り組むべき。
- ・是非やりたい。

〈その他、サミットで伝えなかったこと・・・〉

- ・下流から上流へ、「水」をいただいてありがとう。

議論は尽きることなく・・・



熱心に耳を傾ける参加者のみなさん

第1回 沼田川サミット—まとめ—

沼田川流域の“水の彩り”

水が育む豊かな文化

いつまでも豊かさを伝えたい・・・

- ・ 水のある風景、季節ごとの輝き
- ・ 水との遊び・祭り
- ・ 水を活かした食文化
(鮎、酒、海の物、山の物・)
- ・ 水にまつわるあまたの歴史
- ・ 水を感じる心、水を大切にしている心



いのち溢れる沼田川流域

ついつい、当たり前になってしまふこと、
そして、忘れてしまったこと、
沼田川・・・

そこには、たくさんの“豊かなふれあい”
があることに気づきました。

と同時に、それらは消えかけています。

時に優しい「水」、時に厳しい「水」
私たちを育んでくれる“ふるさと” 沼田川流域

水がつなぐ“いのちの絆”

つなぐ一歩は、“私”そして、“あなた”
沼田川流域には、まだ楽しいこと、
頑張っている人がいっぱい
一緒に見つけたい
一緒に伝えたい

“沼田川のこどもたち”のために



みんなで、 “沼田川流域の心の地図”をつくろう

そして、その地図片手に

一緒に楽しく歩こう

さあ、いまから

一緒に仲良く地図づくり
一緒に仲良く山あそび
一緒に仲良く川あそび
一緒に仲良く海あそび

そのために、一緒に手を携えませんか？
少し頑張って・・・

「沼田川交流会」づくり

沼田川サミットの舞台裏・・・



活動の良さやおもしろさって、何？

- 水に対して関心が高い
- 自分たちで企画し、活動すること。何物にもとらわれず自由な発想によるおもしろさ。各会員が自分から参加する心
- 遊び心を持っていること。福富町に誇りが持てるようになってきたこと
- みんなの意見や想いを形にできる点
- 常時、遊び心を持っている
- 時として子供心に戻って、魚捕り等の活動に生き生きとしてやったり、交流等に積極的に取り組んだりし、その中で、バランスのとれたコミュニケーションが会員同士の間で育まれている
- 水源の町と下流の町との交流
- 知らなかった人々との交流ができる
- 角張った会合ではなくて行事がスムーズに行くところ

**あなたの一步が
沼田川の水と命をはぐくみます**

すいすい倶楽部から みなさまへ

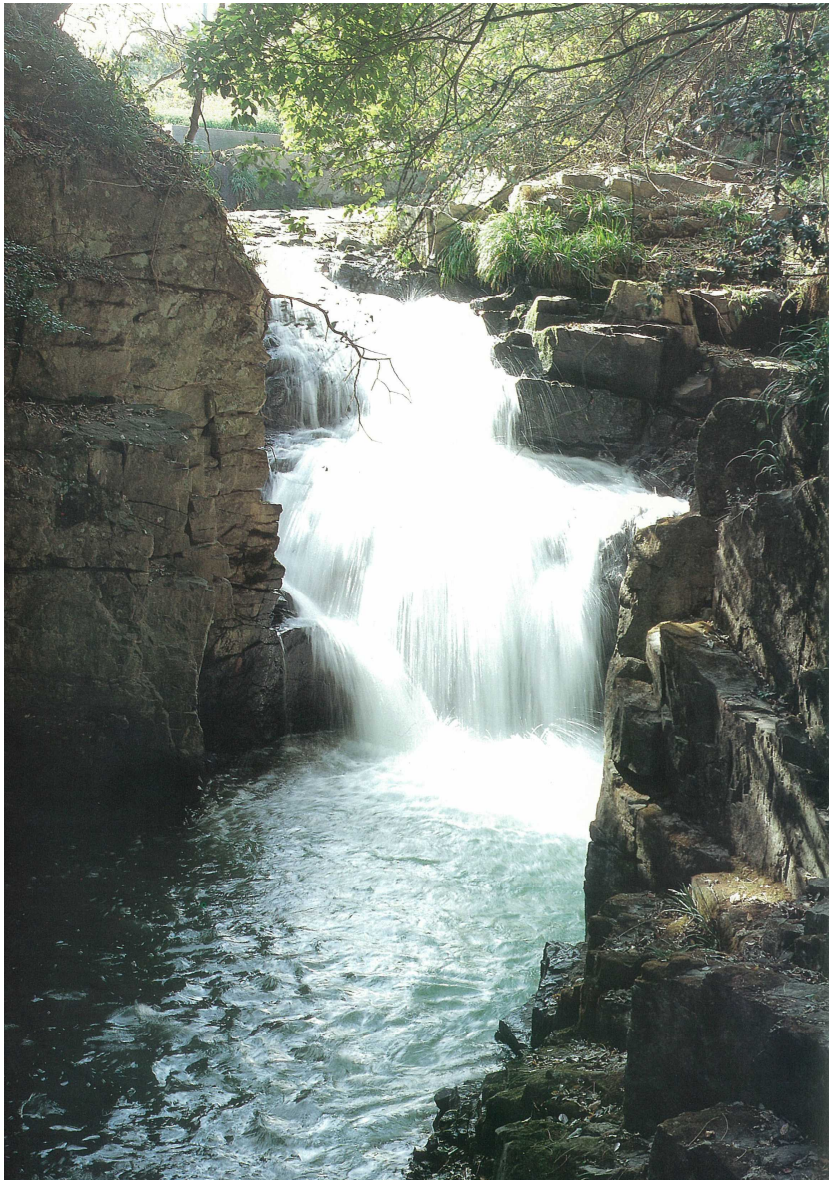
すいすい倶楽部の活動から5年目を迎えた今回、はじめて沼田川流域の皆さんに声をかけて、「第1回 沼田川サミット」を開催することができました。

これまでは、それぞれの場所で点と点の活動でした。これからは、沼田川の水に育まれている皆が、一緒に自分たちのできることを通じて、楽しくお互いのために力を出し合える関係を育んでいきたいと思います。

平成 17 年 1 月

総理大臣 松永治寿





 発行：すいすい倶楽部

 編集：中央情報局

 平成 17 年 1 月